

問題1

Aの空欄のくずし字を読んでみよう。

A



歌合とは？

歌人が左右二組に分かれ、同じ題で詠んだ和歌の優劣を競う遊びです。ひらがなが普及し、和歌が盛んに詠まれるようになり、貴族の間で流行しました。
この和歌は村上天皇の時代、天徳四年（九六〇）に、内裏（天皇の住居、御所）の歌合で詠まれました。

平兼盛
たひらのかねもり

しのぶれど色に*

①

我わが

②

は

ものや

③

人のとふ*

④

★和歌のお題は

★この和歌を読んで、わかったことをメモしましょう！

*しのぶ：隠れる。
*色：顔色、表情。
*問ふ（問う）：尋ねる、質問する。

年組番号前

問題2

Bの空欄のくずし字を読んでみよう。

B



歌合とは？

歌人が左右二組に分かれ、同じ題で詠んだ和歌の優劣を競う遊びです。ひらがなが普及し、和歌が盛んに詠まれるようになり、貴族の間で流行しました。

この和歌は村上天皇の時代、天徳四年（九六〇）に、内裏（天皇の住居、御所）の歌合で詠まれました。

壬生忠見 みふのただみ

てふ吾 ふ

なは

まだき *

人

おもひそめしが *

②

③

★和歌のお題は

★この和歌を読んで、わかったことをメモしましょう！

*てふ……という。
*まだき……まだその時期ではない。早い。
*おもひそめ……思いはじめる

年 組 番 前

解答

問題1 *括弧内は字母

- ① いでにけり (以帝爾介利) ② こひ (己比)
③ おもふと (於毛不止) ④ まで (末天)

☆和歌のお題 「しのぶ恋」

問題2 *括弧内は字母

- ① こひす (己比寸) ② たちにけり (太知爾介利)
③ しれずこそ (之禮春己曾)

☆和歌のお題 「忍ぶ恋」

教材について

ねらい…くずし字の学習を通して、文字や言葉の変化と平安貴族社会における和歌の在り方を理解する。
時間配分…説明5分、解く時間15分、解答解説5分
計20分

対象教科…国語・社会・書道

○使い方 (1または2の方法で使います)

- 1 問題1または2を単独の教材として使用します。使
用しなかった方の和歌は教員が説明してください。
2 ペアワークまたはグループワークで問題1・2をそ

れぞれ解きます。問題1と2それぞれの和歌の解釈から、この対決のお題を探ります。

*時間がある場合は調べ学習をします。

問題解説

今回使用した二題は、「天徳内裏歌合」において平兼盛と壬生忠見が詠んだ歌で、名勝負として後世に語り継がれています。双方共に素晴らしい歌で、なかなか決着がつかず、村上天皇(第62代天皇・在位九四六〜九六七)に判断を仰いだところ、「しのぶれど」と口ずさんだことから、兼盛が勝ちました。『沙石集』(鎌倉・説話・無住道曉)によると、負けた忠見はショックのあまり、心を病み、「不食の病」(拒食症)になって、亡くなったとされています。しかし、『袋草子』(平安・歌論・藤原清輔)や『忠見集』から、『沙石集』のエピソードはフィクションで、忠見はその後も生きていたことが分かります。このあたりのエピソードは調べ学習に取り入れてみてください。

本来、歌合はお題に対して和歌を詠むものですが、今回は、和歌の内容からどんなお題で競ったのか推理して

みましょう。

問題1 「百人一首」40番の和歌です。(所載歌集『拾遺集』恋一 六二) 作者は平兼盛です。

①「い」は現在のひらがなと同じ形で「以」からきています。「で」は「帝」に濁点がついたものの、「に」は「爾」「け」は「介」、「り」は「利」です。「いづ」はダ行下二段動詞「出づ」(出る)で「にけり」は「くでしまった」という意味なので、「顔(色)に出してしまった」と訳します。「色」とは、現代と同じ色彩に関する意味だけではなく、色彩の美しさから転じて、人の容姿・容貌の美しさ、人の内面が表れる表情、自然の気配を表現するのにも使われました。特に、「色に出づ」は、恋の思いが表情に表れる場合に用いることが多い表現です。

②「い」は「己」、「ひ」は「比」で「いひ(恋)」を指します。なお、「恋」は恋愛に関する意味以外にも、目の前にないモノを求めて、慕う気持ちを表します。

③「おもふ」は現在のひらがなに近い形で、「於毛不」です。直前の「や」が疑問の係助詞で「思ふ」が連体形の係り結びとなり、「(恋の)もの思いをしているのか?」

となります。「と」は「止」です。

八行四段動詞「思ふ」は、恋愛表現の場合、愛情を誓う語として用いられることがあります。神仏に誓って愛するというニュアンスが込められています。

④「ま」は「末」、「で」は「天」に濁点がついたものです。「人が尋ねる(質問する)まで」となります。

和歌全体を活字に直すと、次のようになります。

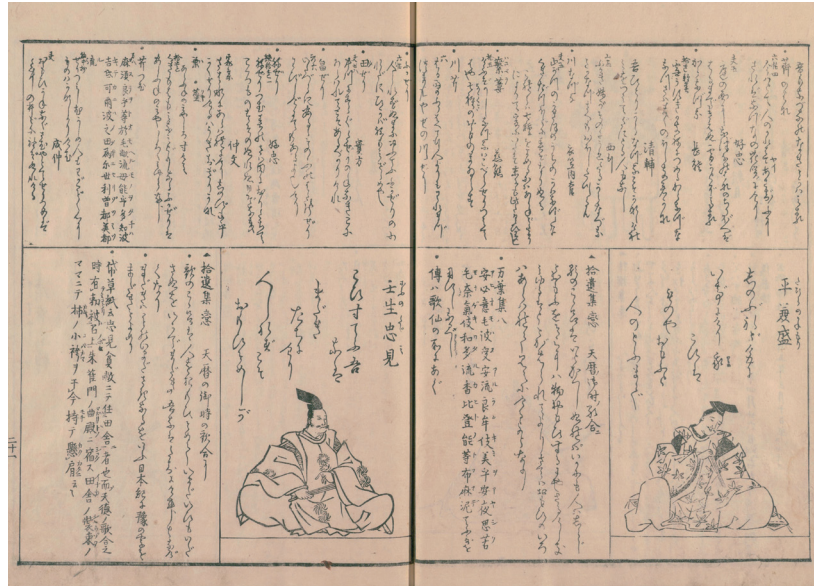
しのぶれど 色にいでにけり 我がこひ(恋)は
ものやおもふ(思ふ)と 人のとふ(問ふ)まで

訳 隠していても、顔に出してしまった。私の恋は、「恋の物思いをしている?」と人が尋ねるほどに。

表現 二句切れ・倒置法

隠していたはずの恋。しかし、他の人から私を見ると「どうしたの?」と尋ねられるような顔色をしていたんだ。と会話的要素と客観的要素を両方読み込んだ作品です。「しのぶれど」とありますから、「隠していた恋」＝「忍ぶ恋」がお題だとわかります。

問題2 「百人一首」41番の和歌です。(所載歌集『拾遺集』恋一 六二) 作者は壬生忠見です。



『百人一首抄』平兼盛・壬生忠見の歌が掲載されているページ(国立国会図書館デジタルコレクション)



『百人一首抄』表紙(国立国会図書館デジタルコレクション)

①「こひ」は「恋」、「ひ」は「比」、「す」は「寸」です。「こひ(恋)」を「す(している)」という意味です。

②「ま」は「末」、「だ」は「多」に濁点がついています。「き」は「幾」です。「まだき」とは、「早くも(まだその時期に達していない)」という意味の副詞です。「た」は「太」、「ち」は「知」、「に」は「爾」で、「たち(立ち)」で、直後の「にけり」が「してしまった」という意味なので、「(噂が)立ってしまった」と訳します。

③「し」は「之」、「れ」は「禮」、「ず」は「春」に濁点がつきます。ここでの「知る(ラ行下二段動詞)」は「知っている」ではなく、「知られる」という意味になり、「ず」という打消の助動詞(ない)がつくので、「知られない(ように)」となります。「こそ」は現在のひらがなとほぼ同じ形で、「己曾」がもとになっています。「こそ…已然形」で係り結びになっていて、逆説(しけれど)で訳します。和歌全体を活字に直すと、次のようになります。

こひ(恋) すてふ 吾なはまだき たちにけり 人し(知) れずこそ おもひそめ(思ひ初め) *しが(しか) *教材は「しが」となっています。

訳 恋をしているという噂が早くも立ってしまった。人知れず思ひ初めたばかりなのに。

表現 三句切れ・倒置法

他の人に知られないようにしていたはずのひそかな私の恋が、なぜか人の噂(うわさ)になってしまっている。隠していたはずなのに、他の人にばれた驚きや戸惑いが感じられます。平兼盛の和歌のように、お題に直結する言葉はありませんが、「隠していた恋」＝「忍ぶ恋」がお題であることが読み取れます。

使用教材

『百人一首抄』は文政二年(一八一九)に江戸時代後期の国学者で、歌学者である長野美波留(ながのみはる)によって書かれました。上段に三十六歌仙と年中行事、下段に百人一首抄が書かれています。歌仙絵や歌、歌意、出典などが掲載されています。江戸時代後期の作品ですので、くずし字も比較的阅读みやすく、初級教材としておすすめです。底本は「国立国会図書館デジタルコレクション」で公開。 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2538626> (担当: 岩崎彩香)

